

190 浮世絵による東京観光案内（その2）（2023年8月31日）

[前回](#)に続いて、歌川広重の「名所江戸百景」から、江戸の町と現在の東京をご紹介します。

「上野清水堂不忍ノ池」と「上野山月のまつ」（写真右）です。これらの作品は、いずれも東京都台東区の上野恩賜公園にある不忍池を描いています。上野公園は、1873年に日本で最初に公園に指定されました。上野公園には、美術館と博物館、大学や動物園といった学術や文化施設が集まっています。不忍池は、明治の文豪である夏目漱石の「ころも」（1867-1916）や森鷗外（1862-1922）の「雁」といった文学作品にも登場します。「上野清水堂不忍ノ池」で池のほとりに建つのは、寛永寺清水観音堂です。寛永寺は、徳川将軍家とゆかりが深く、徳川家の15人の将軍のうち6人が寛永寺に眠っています。

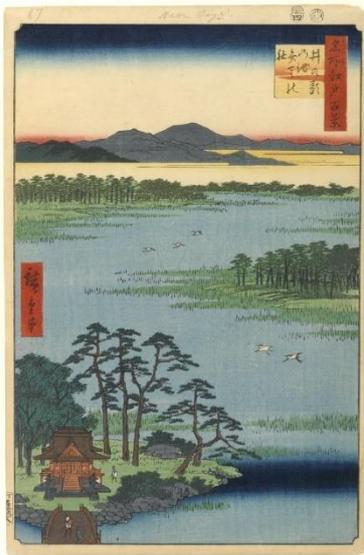


次にご紹介するのは、「増上寺塔赤羽根」です。増上寺は、東京都港区芝公園にあります。この寺も徳川将軍家とゆかりが深く、6人の将軍のほか、夫人と子供を合わせて38人もの将軍家の人物が埋蔵されています。増上寺のすぐ近くには、[東京タワー](#)があります。



最後に、「井の頭の池 弁天の社」（写真下）をご覧ください。井の頭恩賜公園は、東京都武蔵野市と三鷹市にまたがって位置しています。上野公園と同じく、こちらにも恩賜公園です。恩賜公園とは、第二次世界大戦前に皇族が所有していた土地が、地方公共団体へ下賜された後に整備された公園で、現在は上野公園も井の頭公園も都立公園になっています。どちらも桜の名所としても知られています。浮世絵に描かれている井の頭池に浮かぶ弁財天は、現在も存在しています（写真下）。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本



広重が描いた江戸の名所には、今でも同じ場所に存在する場所があります。もし東京を訪れる機会があれば、江戸時代のガイドブックに描かれた景色と現在の姿を比較しながら観光するのも面白いかもしれません。